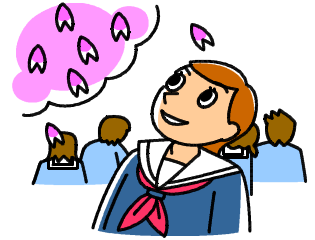




# 特別活動ハンドブック

## —中学校 学級活動—



### 1 目標

#### 特別活動の目標

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。

#### ※望ましい集団活動

次の6つの条件があります。

- ア 活動の目標を全員でつくり、その目標について全員が共通の理解をもっていること
- イ 活動の目標を達成するための方法や手段などを全員で考え、話し合い、それを協力して実践できること。
- ウ 一人一人が役割を分担し、その役割を全員が共通に理解し、自分の役割や責任を果たすとともに、活動の目標について振り返り、生かすことができること
- エ 一人一人の自発的な思いや願いが尊重され、互いの心理的な結び付きが強いこと
- オ 成員相互の間に所属感や所属意識、連帯感や連帯意識があること
- カ 集団の中で、互いのよさを認め合うことができ、自由な意見交換や相互の関係が助長されるようになっていること。

※望ましい集団活動を通して…「(実際の) 活動を行って」の意味です。「なすことによつて学ぶ」(Learn by Doing) が特別活動の原則手法です。

#### 学級活動の目標

学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。

### 2 内容

中学校における学級活動の内容は、(1) "学級会" 的な話し合い活動、(2) "適応指導" 的な話し合い活動、(3) "学業指導"、"進路指導" 的な話し合い活動の3つに分かれます。

学級を単位として、学級や学校の生活の充実と向上、生徒が当面する諸課題への対応に資する活動を行うこと。

#### (1) 学級や学校の生活づくり

- ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決
- イ 学級内の組織づくりや仕事の分担処理
- ウ 学校における多様な集団の向上

いわゆる "学級会" のような話し合い活動を指します。  
集団全員で議題について話し合っ、全員で決定します。

## (2) 適応と成長及び健康安全

- ア 思春期の不安や悩みとその解決
- イ 自己及び他者の個性の理解と尊重
- ウ 社会の一員としての自覚と責任
- エ 男女相互の理解と協力
- オ 望ましい人間関係の確立
- カ ボランティア活動の意義の理解と参加
- キ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成
- ク 性的な発達への適応
- ケ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

いわゆる「適応指導」を指します。  
学校や家庭、社会での生活への適応を図ります。

内容(2)と(3)は、話し合いによって集団全員で考えて意見を交換しますが、自分の在り方を自分で決定する活動になります。

## (3) 学業と進路

- ア 学ぶことと働くことの意義の理解
- イ 自主的な学習態度の形成と学校図書館の利用
- ウ 進路適性の吟味と進路情報の活用
- エ 望ましい勤労観・職業観の形成
- オ 主体的な進路の選択と将来設計

いわゆる「学業指導」「進路指導」を指します。  
学習への適応やキャリア教育の視点を絡めた進路選択の仕方・生き方の指導を行います。

# 3 指導過程 学級活動を指導する際、以下のような流れで進めていきます。

### (1) 学級活動の指導計画

	(1) 学級や学校の生活づくり	(2) 日常生活や学習への適応及び健康安全 (3) 学業と進路
	主として、みんなで決定して、 みんなで取り組む活動	主として、自分で決定して、 自分で取り組む活動
事前の活動	<p>① <b>議題の収集・発見</b> ↓ 学級意見箱、生活記録ノート、学級日誌、朝の会や帰りの会での話し合いや反省、教師の投げかけ等から議題を見付ける。</p> <p>② <b>議題の選定</b> ※学級活動委員会中心 ↓ 議題案を計画委員会が集約し、朝の会等で目標を実現したり、問題を解決したりするための全員で話し合うべき<b>議題</b>を学級全員で選定する。</p> <p>③ <b>計画の作成</b> ※計画委員会中心 ↓ 提案理由を練り上げ、話し合いの柱、役割分担、資料の作成等を検討し、本時の活動計画を立てる。</p> <p>④ <b>問題の意識化</b> ↓ 学級全体に意識化を図るために、</p>	<p>① <b>課題の確認</b> ↓ 教育相談、日常の観察、学級活動年間指導計画等から課題を見付ける</p> <p>② <b>題材の決定</b> ↓ 個々の生徒が共通に解決すべき課題として<b>題材</b>を決める。</p> <p>③ <b>計画の作成</b> ↓ 発達段階に即して生徒の自主的な活動を取り入れるようにする。活動テーマ、テーマ設定の理由、活動方法、資料の作成等を検討し、本時の活動計画を立てる。</p> <p>④ <b>問題の意識化</b> ↓ 学級全体に意識化を図るために、帰りの会等において事前に連絡し、</p>

	帰りの会等において事前に連絡し、自分の考えをまとめ、本時につなげる。	自分の考えをまとめ、問題意識をもてるようにする。
本時の活動	<b>話し合い活動（学級会）</b> 進行：計画委員会 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; background-color: #f08080; margin: 5px 0;"> <b>集団討議による集団決定</b> </div> <p style="text-align: center;">提案理由の理解 ↓  <b>集団討議</b>（意見を交換する） ↓  多様な意見を生かしたよりよい<b>集団決定</b></p>	<b>話し合い活動</b> 進行：教師または計画委員会 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; background-color: #add8e6; margin: 5px 0;"> <b>集団思考を生かした自己決定</b> </div> <p style="text-align: center;">問題の状況や原因の把握 ↓  <b>集団思考</b>（解決や対処の仕方をもとに考える） ↓  自分としての解決方法・めあてを<b>自己決定</b></p>
事後の活動	○集団決定したことをもとに、全員で協力してみんな（集団）で実践する ○活動の成果を振り返り、新たな課題等を整理し、評価する。	○自己決定したことをもとに、個人として努力し、一人一人（各自）が実践する。 ○努力の成果について振り返り、新たな課題等を整理し、評価する。

## 4 学級活動における指導上の留意点

学級活動では、話し合い活動を通して、民主的な話し合いの仕方を身に付け、望ましい人間関係を形成し、自主的、実践的な態度をはぐくみます。

ここでは、学級活動の話し合い活動が形式的、画一的なものになってしまうことのないよう、最低限、留意すべき点を挙げておきます。

### 指導全般にわたっての留意点

○話し合いのルールを確立する

例 ○年○組 学級会ルール5か条

- 友人の発表はしっかり聞
- 呼ばれたら返事をして起立する
- 自分の意見の根拠(理由)を述べる
- 少数意見も生かすことができるように考える
- みんなで決めたら、みんなで行う

話し合いのルールが確立されていない学級では、話し合いが成立しません。状況によっては、学級内の人間関係にも悪影響を及ぼすこともあります。学級活動をしっかりとしたものにするためには、年度当初にオリエンテーションの機会を設け、学級の話し合いのルールを確立し、徹底させましょう。



【学級活動委員による進行】

○話し合いを深めるために、事前に学級活動委員会で学級活動の活動計画を作成するとともに、学級活動カードを活用して生徒に自分の考えを書かせておく。

○学級活動委員会の事前の指導を行う（提案理由、話し合いの柱、話し合いの進め方など）

○必要に応じて提示する資料を作成し、提示の仕方を工夫する

○話し合いの条件を明確にする、時間内で完結する（活動内容の効率化、指導の重点化）

○事前～本時～事後の一連の活動の中での教師の適切な指導・評価（激励や助言など）

○話し合い活動の経験を積み重ねて習慣付け、楽しさを味わわせる

○教科や道徳、総合的な学習の時間、特別活動の他の内容（生徒会活動、学校行事）との関連を考慮した指導を行う

○提案理由や学級目標に根拠を求める（理由、起因するものは何か）

## (1) 学級や学校の生活づくりの指導に当たって

### ○切実感のある（必要感のある）議題を選定する

生徒にとって「話し合って、みんなで実践してみたい」「話し合ったことで、生活がよりよく向上した」などと思えるものが望ましい議題です。

事前に学級活動委員会において、「今すぐに話し合うべきもの」「学級全員に関係すること」「話し合って決めたことが実行できること」「学級や学校の生活をより楽しく、充実させること」など、いくつかの視点から選定します。

### 議題（例）

- |                        |                 |
|------------------------|-----------------|
| ●学級レクリエーションをしよう        | ●学級文集を作成しよう     |
| ●給食のおかわりの方法を考えよう       | ●学級の生活目標を立てよう   |
| ●修学旅行の目標を考えよう          | ●校外学習のバスレクを考えよう |
| ●体育祭（音楽会）の目標や練習計画を立てよう | ●大縄跳びを成功させよう    |
| ●校内音楽会の曲目を決めよう         | ●受験期をみんなで乗り越えよう |
| ●合唱曲をさらによくするための作戦を考えよう | ●清掃活動を改善しよう     |
- など

### ○集団決定の重みを理解させる

全員で決定したことには、一定の強制力や拘束力が働きます。話し合いのもって行き方を誤ると、集団が望ましくない方向に向かってしまう恐れもあります。

内容項目(1)の話し合い活動による集団決定が、望ましいものであるように、事前・本時・事後それぞれの活動の中で、教師による適切な指導・助言を行って話し合いを進め、決定まで見守りましょう。

話し合いの内容が間違った方向に行きそうになったら、毅然とした教師の指導により、軌道修正を行いましょ。

そして、話し合いの結果、学級の総意として決定したことについては、結論であることから、学級の一員として自ら進んで実行するように働きかけるようにしましょう。

### ○集団決定の仕方を想定する～安易な多数決による集団決定にしない、少数意見を尊重する～

#### 【教師が押さえておくべき主なポイント】

- 集団決定された結論が、自分の意見と同一か共通点が多ければ、成就感が高まります。
- 共通点が少なくても、自分の意見も話し合いの中で十分検討されて結論に影響を与えたことを理解させます。
- 教師は、少数意見も部分的に話題として取り上げるように配慮します。
- 意見が取り入れられなかった生徒には、発言を称え、今後も勇気をもって発言するよう励まします。
- 反対意見を述べた生徒の不安を解決する方法や工夫をみんなで考えるようにします

### ○話し合いの隊形を考える（コの字型、小集団等）

話し合いを進めやすい隊形（座席配置）をつくり、生徒の話し合い活動の深まりをねらいます。

#### コの字型

生徒一人一人が互いの顔を合わせて話し合うことができます。みんなの顔を見て話したり、話している人に注目して耳を傾けて聞いたりする姿勢が育ちます。また、教師は真ん中部分を移動して生徒全員と同じ距離で話ができるので、指導助言がしやすいといったメリットがあります。

#### 小グループ別

学級全体の話し合いでは、発言の機会を逸してしまう生徒がいます。また、話を聞くことができない生徒もいます。生活班などを利用して3～5人程度のグループ内で話し合うことによって、生徒一人一人が確実に発言したり、友だちの発言を聞いたりすることができます。

学級活動の活動内容や議題、題材に応じて、学級の生徒の実態に適した話し合いの隊形を選択して授業を設計します。

○教師の助言（話し合い前・話し合い中、終末の助言）、価値付け

**【教師が助言を行うタイミング】**

- ▶ 自治的な活動の範囲を超えたとき
  - ▶ 明らかに自己中心的な発言があったとき
  - ▶ プライバシーに関する発言があったとき
  - ▶ 話し合いのルールからそれる、友人の発言に対し冷やかしゃや中傷があったとき など
- ▶ 感情的な議論になりそうなとき
  - ▶ 話し合いの焦点・方向性が定まらないとき
  - ▶ ねらい、提案理由から話題がそれたとき

○提案理由を練り上げる

**【提案理由に盛り込む内容】**

- ① 学級の実態（課題を取り上げる…「学級にこのような課題がある」）
- ② 話し合う必要性（解決のために話し合う…「みんなで話し合って解決しよう」）
- ③ 問題の焦点化（解決の見通しをもつ…「解決したら、学級（私たち）はこうなる」）

○事後の活動を教師が見届け、次への活動意欲を醸成する

○児童に任せることができない条件（自治的な活動の範囲）はこえない

**【自治的な活動の範囲とは（生徒に任せることができない条件）**

- ① 個人情報やプライバシーの問題 例：住所録等
- ② 相手を傷つけるような結果が予想される問題 例：罰ゲーム等
- ③ 教育課程の変更にかかわる問題 例：時間割変更等
- ④ 校内の決まりや施設・設備の利用変更などにかかわる問題 例：もちもの、校内施設等
- ⑤ 金銭の徴収にかかわる問題 例：プレゼント交換 等
- ⑥ 健康・安全にかかわる問題 例：危険物 等

**(2) 日常の生活や学習への適応及び安全 (3) 学業と進路の指導に当たって**

○年間指導計画に基づいて授業を設計する

自校の年間指導計画を確認し、生徒の実態を照らして課題を浮き彫りにし、扱うべき題材を決定します。

○話し合いの活動形態を工夫する（パネルディスカッション、ロールプレイ、シンポジウム等）

活動内容（2）は教師主導で進めるパターンが主ですが、内容（1）同様、生徒が主体的に活動できる部分があれば、その活動形態を工夫して生徒主体で授業を進行させましょう。（生徒による話し合いの進行、小グループでの意見交換、インタビューなど）



**【教師主導による進行】**



**【教師と生徒による進行】**



**【生徒主体の進行】**



**【パネルディスカッション】**



**【ポスターセッション】**



**【小グループでの意見交換】**

## ○問題意識を共有する

内容（２）（３）では「いかに学級全体で問題意識を共有して活動の開始に臨むか」が重要なポイントとなります。そのための工夫として、アンケート調査の実施や調査結果の提示方法の工夫などに配慮します。



### アンケート結果の発表▶

## ○集団で多様な意見を引き出し、生徒一人一人を自己決定に結び付けるための工夫を行う

### 【生徒主体の活動を取り入れる場の設定】

内容（２）（３）は、教師が題材を決定し、教師主導によって授業を進行する機会が多いが、教師の適切な指導の下に進行を（１）同様、生徒によるものとし、みんなが共通に解決すべき課題に向けて集団思考しているという連帯感を醸し出す。

### 【多様な解決策を引き出す工夫】

- ① 全体集団から小集団の話し合いへ  
全体集団で意見交換をした後、小集団でさらに話し合いを深め、最終的に自分自身の問題としての自己決定に結び付けるようにする。
- ② ゲストティーチャーの活用  
専門的視野や経験をもった人をゲストティーチャーに招き、話を聞くことで思考を深める。



【生徒に進行を任せる場の設定による集団思考】



【全体で話し合った後の小集団での話し合い】



【外部から指導者を招き、専門的な話を聞く】

## ○事後の活動の実践化するために日常生活とのつながりをもたせる

内容（２）（３）では、本時で生徒一人一人が決定した自己の実践事項をいかに行わせて児童のよりよい変容につなげていくか、「日常化」が重要なポイントとなります。学級通信や他の教師からの称賛などを活用して児童のよりよい変容につなげていきましょう。

## ○家庭との連携を密にする

自己決定した内容（自己の実践事項）を記入したカード等の作成を工夫し、家庭で実践できるようにすることが考えられます。生徒が実践することに保護者のコメントやサインを求めたり、学級通信で学級活動の様子を保護者に知らせるなどして、家庭との連携を密にしましょう。

# 5 学級活動を活性化するための工夫

## 学級活動委員会

学級活動委員会は、学級活動をリードする仕事を担うグループです。一般的に、司会（議長）、黒板記録、ノート記録などに提案者（議題を出した生徒）が加わったメンバーで構成されます。

### 学級活動委員会の役割(例)

- 司会（議長）  
話し合いの進行・調整
- 副司会（副議長）  
司会の補助、指名
- 黒板記録  
発言の整理と板書
- ノート記録  
内容の記録、保存管理
- 提案者  
提案理由の説明

小学校時の「計画委員会」と同様、学級でルールを決め、交代でやっていくこと（輪番制）が望ましいとされますが、リーダーの育成の視点から学級委員・代表委員や生活班長などの学級のリーダーを活躍させてもよいでしょう。教師と生徒とで、その年度の学級の実態に合った学級活動委員会を編成しましょう。

### 学級活動委員会の活動の流れ

#### 事前の活動

- ① 役割を分担する
- ② 議題(題材)を選定・確認する
- ③ 提案理由の練り上げ・話し合いの柱を設定する
- ④ 50分の授業の流れを検討する
- ⑤ 学級の仲間へ次時の活動の連絡等を行う

#### 本時の活動

- ① 話し合いをスムーズに進行する  
(司会、記録、資料提示、指名等)
- ② 大きな声で元気に活動する  
(発言しやすい集団の雰囲気づくり)

#### 事後の活動

- ① 話し合いで決まったことを学級の中心となって進めていく
- ② 学級のみんなの実践をアンケート等により評価する
- ③ まとめを行い、次回の学級委員会へ引き継ぐ。

※教師は常に学級活動委員会に寄り添い、活動を見守りながら、適切な指導を行う。

### 学級活動カード

学級活動カードは、話し合いを深めるために必要なものです。教師にとっても、生徒の考えを把握したり、生徒の変容を把握したりするために大切なものです。

事前に配布し、考えを記入させ、学級活動委員会(教師)が回収し、一人一人の考えを把握しておくことで話し合いがスムーズに進行できます。

#### 活動内容(1)の例▶

第〇回 ○〇〇〇会議

〇月〇日(〇) 〇校時

姓 名 年 級 組 番 氏 名

内容(2)(3)では、題材や活動テーマ等の項目にします。

内容(2)(3)では、題材設定の理由や活動テーマ設定の理由等の項目にします。

事前に学級活動委員会で確認し、話し合いの順序や役割を分担して明記しておきます。

事前に話し合いの柱ごとに自分の考えを記入させておきます。

集団決定した内容に対して、自分の決意等を記入することも有効です。

本時では、話し合いの自己評価を必ず行います。この積み重ねにより、生徒の変容を把握できます。同時に話し合いの仕方や方法を自然と理解できるようになります。

議題			
提案理由			
役割分担 ( 班 )	司会		異班記録
	副司会		ノート記録
時間	話し合いの順序	担当者	自分の考え・意見
分	1 はじめの言葉		
	2 学級活動委員の紹介		
3 議題の発表・確認			
4 提案理由の説明			
5 先生の話し			
分	6 話し合い		
分	7		
分	8 決定事項の確認		決定事項
分	9 自己評価・感想記入		の異班記録、決意
自己評価「本日の話し合いの反省」		全体を通しての感想	
1 提案理由に沿って考えられた A・B・C 【学級の生活目標】			
2 自分の意見を述べて発表した A・B・C			
3 他人の意見を聞いて生かされた A・B・C			
4 決定事項を理解し、意欲意識が高まった 【折り合いがつけられた】 A・B・C			
担任			

# 6 内容ごとの実践例

## 学級活動 内容(1)の実践例 第2学年

**議題** 最高の学級合唱にするための作戦を考えよう

**事前の活動**

- ◆音楽会にかける思いを書く(帰りの会)
- ◆学級として、どこを目指して音楽会に臨むかについて確認する(前時の学級活動)
- ◆アンケート調査を実施する(帰りの会)  
(内容例)
  - 学級の合唱曲を練習してみて、学級の課題は何か。
  - 課題を解決するために、学級全体で取り組むべきことは、どんなことか。
- ◆アンケート結果を集計し、学級活動委員会で役割分担を行い、提案理由を練り上げ、話合いの柱を設定し、50分の流れを考える(学級活動委員会)
- ◆学級活動カードを配布し、自分の考えをまとめる(帰りの会)

**本時の活動**

- 1 開会の言葉
- 2 学級活動委員会の紹介
- 3 議題の確認
- 4 提案理由の説明
- 5 決まっていることの確認
- 6 先生の話
- 7 話合い

(1)最高の合唱にするために○組として、どんなことができるか

**集団討議**

- ◇みんなでランニング、筋力トレーニングを行う
- ◇声の出し方講座を開く
- ◇歌う直前に気持ちを一つにするために黙想する
- ◇校庭に出て大きな声で練習する など

**集団決定**

決定事項

- ①筋トレ強化期間の設定
- ②黙想の実行(指揮者の合図)
- ③円陣を組んでの合い言葉の実践 など

(2)必要な係をどうするか

**集団討議**

- 筋トレ隊の創設
- 声出しリーダーの選出

**集団決定**

- 盛り上げ隊の再編

- 8 決定事項の確認
- 9 自己評価・感想(学級活動カード)
- 10 先生の話
- 11 閉会の言葉

**事後の活動**

- ◆決定事項について実践(教師の見届け、励まし、称賛)
- ◆音楽会までの練習(決定事項を実行した練習形態)
- ◆音楽会当日の合唱発表
- ◆振り返り(実践の評価、価値付け、次の活動や生活への動機付け)

※内容(2)についても(3)同様の流れとなります

## 学級活動 内容(3)の実践例 第2学年

**題材** 苦手教科を克服しよう

**事前指導(事前の活動)**

- ◆年間指導計画と生徒の実態から課題を見出し、題材を選定する(教師、学級活動委員会)
- ◆アンケート調査を実施する(帰りの会)  
(内容例)
  - 苦手、不得意としている教科は何か。
  - 苦手教科に対する学習時間、勉強法はどのようにしているか。
  - 自分が苦手としている教科を得意としている友だちは誰か。
- ◆アンケート結果から本時の活動で扱う内容を決定する(教師、学級活動委員会)
- ◆アンケート結果から、本時の活動(パネルディスカッション)のパネラーとする生徒を決定する(教師、学級活動委員会)
- ◆パネラーの生徒を集め、自分の"とっておきの学習法"について意見交換し、発表内容を確認する(教師、学級活動委員会)
- ◆本時のパネルディスカッションのコーディネーターとなる生徒を決める

**本時の活動**

- 1 本時の活動テーマの確認
- 2 教師の話
- 3 課題の把握: アンケート結果の発表(学級活動委員)

- ・結果を受けて気付いたことの発表

- 4 本時の題材提示(教師、学級活動委員)
- 5 パネラー、コーディネーターの紹介
- 6 話合い

**集団思考**

- (1)パネルディスカッション開始
  - ①私の"とっておきの学習法"、紹介
  - ②パネラーどうしの意見交換
  - ③フロアからの質疑応答
- (2)小グループでの意見交換

**自己決定**

- 7 自己の実践内容決定・感想記入・発表(学級活動ノート)
- 8 自分のめあての発表
- 9 先生の話

**事後指導(事後の活動)**

- ◆自己の実践内容についての毎日の確認(自己評価シート等の活用)
- ◆一定期間継続してできた生徒の取組の紹介、称賛(学級通信)
- ◆定期テスト等の取組との関連をもたせた各自の学習計画表の作成